

令和5年度学校評価のまとめ

1 教職員による学校評価（自己評価）

(1) 数値による評価

- ・ 評価項目19項目のうち、16項目が、高評価（「4」もしくは「3」）の割合が95%以上の評価となった。高評価とならなかった3項目は、項目④「GIGAスクール構想に基づくICTの積極的な活用と実践事例の蓄積ができているか。」、項目⑩「教育活動の内容や児童生徒の活動・活躍などのホームページ等による積極的な情報発信がなされているか。」、項目⑬「一係一改善やファイル・電子データの整理、クリーンデスクによる業務の簡素化・効率化が推進されているか。」である。しかし、この3項目についても高評価（「4」もしくは「3」）の割合が全体で90%以上となっている。学校教育目標の達成に向けて、職員が課題意識をもって取り組んだ成果であると考えられる。
- ・ 各学部の評価をみると、項目④については、中学部で高評価（「4」もしくは「3」）の割合が81%だった。今年度、テーマ研修係や情報教育・ICT係を中心に、職員研修を実施して、職員の技術向上を図ったり、タブレット端末を学級に1台配布したりするなど、環境整備を進めたが、実践までには至っていない結果であると考えられる。今後はさらなる技術向上を目指した研修や環境整備を進めることと授業実践において活用していくことが課題となる。
- ・ 項目⑩については、高等部で高評価（「4」もしくは「3」）の割合が85%であった。ホームページの記事作成に関わった職員が少ないことが、結果の要因の一つと考えられるが、1回目のアンケート結果を受けて、行事等の係分担にホームページの係を入れて、積極的な情報発信を進めていくことにした。ホームページへの新規の記事は増えており、今後も、ホームページによる情報発信はさらに進めていく。掲載する情報の内容については、今後、検討が必要である。
- ・ 項目⑬については、事務部で高評価（「4」もしくは「3」）の割合が78%だった。他学部では、高評価の割合が1回目よりも上昇している。一係一改善やファイル・電子データの整理、クリーンデスクへの取組が業務の簡素化・効率化につながったと感じる職員が増えた結果でもあると考えられる。職員の記述回答からも、業務の簡素化・効率化に関しては、ファイル・電子データの保存・整理や行事精選、各校務分掌等での業務内容の見直し、クリーンデスクの取組の必要性についてうかがえるので、今後も課題意識をもって取り組んでいく必要がある。
- ・ 今回評価基準として設けた「N」については、全体的には、1回目同様「N」と回答している職員は少なかったが、やはり事務部においては、「N」の評価が多い項目があった。事務部の学校評価項目については、課題がある。今回「N」の評価が多い項目については、来年度の学校評価項目から省く、または変更する等の検討が必要

である。また、数としては少ないが、職員の評価においても「N」と評価している項目があるので、その項目については、どのような取組をしているのか、全職員が共通理解できる工夫が必要である。

(2) 記述による評価

- 挙げられた意見をおおまかに分類すると、「コミュニケーションの活性化による相互扶助的な関係づくり、協働体制の構築」に関する意見が、学校全体で33件挙げられ、33件の中には、コミュニケーションを取るための時間的な余裕、心の余裕、話がしやすい雰囲気づくり等が必要であるというものがあった。また、「業務内容や教育環境の改善」に関する意見が、学校全体で16件挙げられている。職員の意識は高まってはきているので、今後も取組を継続していく必要がある。また、「業務内容や教育環境の改善」を進めることで、時間的な余裕や心の余裕が作れるのではないかと考える。

2 学校評価（保護者アンケート）

(1) 数値による評価

- 今回、アンケートを「Google フォーム」あるいは、紙面で実施した。「Google フォーム」を用いることで、集計作業は、容易になったが、回答率が、全保護者の60%程度で、昨年度の79%に比べて、19%下がっている。回答率が下がったのは、初めての「Google フォーム」での回答で慣れていないことが考えられるので、今後も「Google フォーム」と紙面との両方での実施と回答期間中に安心安全メールや週報等で保護者へのアンケート実施の理解を呼び掛けていく必要がある。
- 学校全体では、項目1「教育方針や教育内容」、項目2「学習指導の情報発信」、項目6「通知表の工夫」、項目8「登校への意欲」、項目14「道徳や社会マナー」に関する取組が高く評価されている。
- 項目4「開かれた学校づくり」に関する取組は、「2：やや不十分」、「1：不十分」が、学校全体で12%であったが、高評価（「4」もしくは「3」）の割合は、昨年度より6%上昇している。今年度は、運動会や学習発表会などの学校行事に、昨年度は保護者参加人数を1人に制限していたが、2人までにするなど、昨年度より多くの保護者が参加できたり、行事の係をPTAと協力しながら運営したりすることができた。また、コロナ禍で中止していた愛校作業やPTAバザーを実施することができた。このようなことが評価の上昇へとつながったと考える。今後、中学部販売会や高等部たけよう祭が計画されているので、さらに、保護者の来校の機会があり、開かれた学校へとつながっていくと考えるが、地域の方々の参加の在り方については、課題がある。

- 項目7については、中学部で高評価（「4」もしくは「3」）の割合が83%だった。中学部では、以前実施していた地域の中学校との学校間との交流学习が、コロナ禍で、中止になっていたが、ビデオ交流や手紙交換などをした年度もあった。今年度は、相手校からの要望がなく実施していない。学校間との交流学习については、相手校の教育課程にも関わってくるので、実施については難しいところがある。小学部・高等部では、近隣の学校と学校間交流を行っている。居住地交流に関しては、昨年度より件数が増えている。今後、交流学习の工夫・改善を図りながら、学校間交流と居住地校交流を進めていく必要がある。
- 項目10「進路指導」に関する取組は、「2：やや不十分」、「1：不十分」が、学校全体で13%であったが、高評価（「4」もしくは「3」）の割合は、昨年度より13%上昇している。進路指導係を中心とした職員研修による職員の意識向上や学習内容の改善、保護者に向けての進路講話等による情報発信といった取組が上昇したことへとつながったと考える。特に、小学部での高評価の割合が昨年度より、32%と大きく上昇している。今年度、小学部では、全学年で、高等部の進路指導担当の職員が、保護者へ向けて進路講話を行い、その中での保護者からの質問に対して、答えることができている。このような小学部段階から、発達段階に応じた進路指導について理解を深めてもらうための取組の成果であると考え。この成果をさらに伸ばすために、ミーティングや学級PTA等でも、教育支援計画等を基に、進路について話をする機会を年間を通して、継続的にもつ必要がある。中学部で、高評価（「4」または「3」）の割合が83%、高等部で81%という結果となっている。学部が上がるにつれ、卒業が近くなり、保護者にとって知りたいことや分からないことが明確になり、情報が欲しいという結果の表れではないかと考える。進路学習（進路指導）の取組の充実が今後も本校の課題である。
- 項目12「学校の施設・設備」に関する取組は、「2：やや不十分」、「1：不十分」が、学校全体で12%であったが、高評価（「4」もしくは「3」）の割合は、昨年度より1%だが、上昇している。2年前にボランティアによるグラウンド整備をしており、保護者にとって目に見える形でグラウンドの環境改善がなされていることや毎月実施している安全点検をもとにした改善への対応等が上昇へとつながったと考える。今後も、点検と改善を意識した取組を続けていく必要がある。

(2) 記述による評価

- 保護者の記述による御意見の中には、「個に応じた指導の充実」、「学校と家庭との情報共有・連携」、「高い人権意識（不適切な指導の改善）をもった支援」、「基本的な社会のマナーに関する指導の充実」、「経験の幅の拡大」、「子供たちが安心・安全に過ごせる環境づくり」についての意見が挙げられていた。これらのことを意識して、今後も保護者と連携を図りながら教育活動を実践していく必要がある。

3 学校評価（児童生徒アンケート）

今回は、全児童生徒にアンケートを配布し、児童生徒が質問内容を理解して、回答したものを有効回答として担任が集計した。各項目とも、おおむね高い評価を得ている。今後も、児童生徒の自立と社会参加に向けて、進路学習を充実させながら、「一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行う、児童生徒が喜んで通う学校」を目指し、高い人権意識をもって指導にあたる必要がある。

4 次年度に向けた改善策等

(1) 次年度に向けた課題と具体的な取組

次年度に向けた課題	具体的な取組
・ICTの積極的な活用 (学校評価項目④)	・技術向上を目指した研修 ・実践事例の情報交換
・教育活動の内容や児童生徒の活動・活躍などの積極的な情報発信 (学校評価項目⑪)	・ホームページの充実（行事の係に担当を入れる。等） ・連絡帳やミーティングでの情報共有 ・週報やPTA等による情報提供
・業務の簡素化，効率化の推進 (学校評価項目⑱)	・一係一改善（教材研究・職員間の情報交換の時間確保） ・ファイル電子やデータの保存・整理 ・クリーンデスク

(2) 指導・支援における共通理解事項

- ・人権や社会人としてのマナーに関する研修や個に応じた支援の在り方の研修を深め、チーム力を発揮して、児童生徒の人権を尊重した指導・支援を行う。
- ・職員間では、ふだんからのコミュニケーション（挨拶、思いやりのある言葉掛け等）を心掛けて、保護者とはミーティングや連絡帳等をとおして、情報共有・連携を図りながら、協力体制で、教育活動を進めていく。
- ・インシデント報告と安全点検・改善を徹底し、安心・安全な環境作りに努める。
- ・教師と保護者間で進路指導に関する情報を共有しあい、ふだんの学習活動が進路指導につながっていることを周知することで、発達の段階に応じた進路指導についての保護者理解をさらに深める。